

学部通信第10号

文責：平山 正敏

12月15日（金）に、「高校生と議員の交流事業」がありました。本事業は、ふるさとの未来を担う高校生と県民の代表である県議会議員が、自由な雰囲気の中で活発な意見交換を行うことで、お互いが刺激を受け、新たな視点の発見と企画立案能力の深化を目指すとともに、若者の主権者としての政治参加意識の醸成と向上を図ることを目的に行われる事業です。今年度、高校からは諫早高等学校、島原高等学校、島原翔南高等学校、上五島高等学校、聖和女子学院高等学校の5校、特別支援学校からは本校が参加し、各校からの政策提案等の発表、高校生と議員との意見交換、高校生同士の座談会、議場見学などが行われました。

本校からは、本科1・2年生が参加し、2年生の木下旺君が、1年生のフォローを受けながら、「みんなが暮らしやすい街づくり」のテーマで意見発表を行いました。約20名の県議会議員、参加校の生徒・教師、議会事務局関係者など50名以上の前で発表する状況で、かなり緊張していましたが、口話と手話を併用しながら堂々と意見発表をすることができました。県議会議員さんの多くは、発表中にメモを取りながら耳を傾けておられましたし、発表後、他校の参加生徒から「素晴らしい発表でした」と直接言われるほど素晴らしい発表ができました。事前に、内容（情報保障に関する要望やそれらが整えられることで、他の障害のある方や高齢者、外国人なども暮らしやすい街になること、また、手話言語条例の制定に対する期待など）を教師と一緒に深く考え、資料にまとめて何度も発表練習に取り組んだ成果だと思います。今回の努力によって得られた成功体験を、是非今後の学習につなげていってほしいと思います。

意見発表の様子です。発表前は、「とっても緊張している」と言っていた木下君でしたが、発表が始まると、大勢の前で、堂々と意見発表することができました。



県議会議員（虎島議員、まきやま議員）との意見交換会の様子です。お二人のフレンドリーな関わりで自然と場も和み、様々なお話をすることができました。



高校生同士の座談会の様子です。本校からは、木下君だけが参加しました。笑顔は見られましたが、緊張はピークだったようです。司会からの質問に一生懸命答えていました。



希望者のみですが、県議会議場を見学することができました。議場を実際に見たり、説明を聞いたりして見聞を広めました。

議場の中には、音声認識アプリを使って、発言者の音声を文字に変換するシステムが導入されていました。



将来、県議会議員になれるよう、これからも日々精進してほしいものです。



ろう学校の高等部1・2年生にとって、日頃、経験できない様々な体験をさせていただきました。県議会議員様を始め、運営に関わられた全ての方々に感謝いたします。ありがとうございました。